

国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン イラク・モスル西部の奪還作戦開始に伴い声明を発表 取り残された 35 万人の子どもたちや家族の脱出ルート確保が急務

イラク軍による、イラク北部モスル西部の奪還作戦開始に伴い、セーブ・ザ・チルドレンは、イラク事務所代表マウリツィオ・クリヴァラロ(Maurizio Crivallero)による声明を発表しました。

「およそ 35 万人の子どもがモスル西部に取り残されています。道幅が狭い、人口過密地域での砲撃や爆弾の使用は、紛争開始以来、最も無差別に犠牲者を生むものになるでしょう。

モスル西部に取り残された家族が私たちに語ったところによると、取り残された人々は、過激派組織 IS(イスラミックステート/イスラム国、以下 IS)の兵士による即時処刑、スナイパーによる狙撃、あるいは地雷の危険のため、脱出の選択肢がありません。先週は、脱出を試みた 9 人家族が、全員射殺されたという話を聞いたそうです。人々は、食料も水も薬もなくなった自宅に閉じ込められているのです。

砲撃や射撃、飢えの中に留まるか、あるいは処刑やスナイパーに狙撃される危険を冒して脱出を試みるか—モスル西部の子どもたちは今、過酷な選択肢を突き付けられています。

イラク軍と、アメリカやイギリスを含む有志連合軍は、子どもとその家族を攻撃から守るために全力を尽くすべきです。そして、街の中心部に進撃する過程では、学校や病院といった民間施設への攻撃を避けるべきです。子どもにとっては、どの勢力から爆弾が撃ち込まれるかが問題ではなく、どこに落ちるのが問題なのです。

市民のための安全な脱出ルートが、直ちに確保されるべきです。子どもたちやその家族が脱出できさえすれば、私たちが緊急支援物資を届けることができると同時に、2 年以上に及ぶ IS 支配下での生活から、子どもたちが人生を取り戻すための支援を開始することができます」

<セーブ・ザ・チルドレン概要>

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって、生きる、育つ、守られる、参加する、「子どもの権利」が実現されている世界を目指して活動する子ども支援の国際 NGO です。1919年に英国で設立され、現在、日本を含む29の国と地域の独立したメンバーが連携し、約120ヶ国で子ども支援活動を展開しています。

本件に対する報道関係者のお問い合わせ先

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 広報 田代範子、太田しのぶ

TEL: 03-6859-0011 E-mail: press@savechildren.or.jp

インタビューのお申込み(英語)

Sarah.Pilchick@savethechildren.org / +9647511240109